



★ 今回は、2学期に小学部で実施した『居住地校交流』の取り組みから情報提供をいたします。



←こちらの動画、難聴がわかるアニメ「なんちょうなんなん」をご存じですか。

この動画は、「**難聴の子をもつ親の会**ぞらいろ」**公式サイト**より、どなたでも自由にダウンロードいただけます。

ぜひ、関係者の皆様にはご覧いただきたい内容です。アニメのかわいらしさだけでなく、聞こえにくさに関する当事者の立場や周囲の人たちにとってできることが、やさしい歌声とともに伝わってきます。

★ 実際に小学部1年生の居住地校交流で、聞こえにくさについて授業を行いました。



指文字も使って自己紹介



動画を真剣に見入る1年生たち



雑音の中での聞き取り体験

「なんちょうなんなん」を視聴したあと、隣同士で感想を出し合う時間をもちました。感じたことを積極的に伝え合う子供たちの姿が印象的でした。「後ろからはわかりにくいから、前から話しかけるようにしたい！」などの意見が聞かれました。

また、この動画の活用に加えて、**難聴児支援教材研究会**の「**難聴理解かるた**」による説明も1年生の関心をひきつけていました。補聴器になじみのない子供たちにとって、補聴器とはどんなものなのか、どんなことに気を付けるとよいのか、という点を知るための絵と文字によってわかりやすく知ることができました。

補聴器をつけていても、雑音があると聞こえにくくなってしまうため、「雑音に気を付けたい！」と1年生の多くが、わかったこと、気付いたこととして発表してくれました。

～地域で共に学び、共に生きる教育～を推進していくため、特別支援学校におけるセンター的機能を充実させていきます。



ミニコラム

補聴器がうまく はたらかない状況とは？

- ① 周りがうるさい時（騒音下） ②距離がある時 ③話し相手がたくさんいる時

- ① 補聴器は音を増幅しますが、聞きたい声だけを選んでくれる機能はありません。周囲がうるさいと必要な声などを聞き取ることが困難です。
- ② 会話をする相手と2～3mまでの距離であれば比較的聞きやすいですが、それ以上離れると、大きな声を出しても聞こえにくいことが多いです。
- ③ 音色の聞き分けが苦手で、誰の声なのかと判断がつきにくいです。

そのため、補聴援助システムを活用しています。

いろいろな補聴援助システムがあります。周囲の雑音をできるだけ排除して、聞きたい声をよりきれいに聞こえるようにします。音は鮮明になりますが、完全に聞こえるわけではないため、周囲の話し方の配慮は必要です。

居住地校交流での場面から



担任の先生が使用するワイヤレスマイクロホンで拾った声を、デジタル無線方式で送信し、児童が使用する受信機で受け取ることができます。

先生の声が 聞こえやすいな。

「補聴援助システムについて知りたい！」「こんな時はどうすればよいかな？」など、質問がありましたが、お気軽に**みみらんど・會津**におたずねください。

お知らせ

好評！ 子育て座談会を開催します。【令和7年2月21日（金）】

今年度も、東北福祉大学教授の大西孝志先生をお招きして、子育て座談会を開催いたします。聴覚障がい教育に造詣が深く、保護者支援に詳しい大西先生とお話できる貴重な機会です。詳細は、後日のお知らせとなりますが、今回は令和5年度に参加された保護者の感想の一部をご紹介します。

これからの家での遊び方や育て方など、参考になることを聞くことができて良かったです。

子どもの様子を実際に見ただけで、お話を伺えて良かったです。

個別でゆっくりお話を聞き、質問することができて良かったです。

今後の進路や自立に向けて、具体的なアドバイスをもらうことができたので、学力や言語の面以外も伸ばせるよう取り組みたいです。

子どもの成長を見ていただけて、とても嬉しく思います。生活の中に、言葉や思考力を育てる取り組みがたくさんあると気づきました。